

第8回「野菜を育てる～命を慈しむ心～」

施設の裏庭には小さな菜園があります。春になると、利用者の皆さんが協力して野菜作りに取り組みます。その中でも、特に熱心に菜園の世話をしているのが、としおさん（仮名・33歳男性）でした。

としおさんは軽度の知的障害がありますが、とても優しい心の持ち主でした。しかし、物事を継続することが苦手で、興味を持っても三日坊主で終わってしまうことが多く、ご家族も「何か長続きするものが見つかればいいのですが」と心配していました。

菜園活動が始まった4月のある日、職員の吉田さんがとしおさんに「一緒にトマトの苗を植えませんか？」と声をかけました。としおさんは「トマト、好き」と答えて参加することになりました。最初は他の利用者さんと一緒に、楽しそうに土をいじっていました。

苗植えの翌日、としおさんは朝一番に菜園に向かいました。「トマト、大丈夫かな」とつぶやきながら、昨日植えた苗の様子を見ていました。吉田職員が「としおさん、心配なんですね」と声をかけると、「小さいから、心配」と答えました。その日から、としおさんの菜園通いが始まりました。

最初の一週間、としおさんは毎日菜園を見に行きました。でも、トマトの苗に変化は見られませんでした。「つまらない」と言い始めたとしおさんに、吉田職員は「野菜は人間の赤ちゃんと同じで、大きくなるのに時間がかかるんですよ。としおさんが毎日お水をあげているから、きっと元気に育ちますよ」と説明しました。

その話を聞いたとしおさんは、「赤ちゃんなの？」と興味深そうに尋ねました。吉田職員が「そうです。だから毎日優しくお世話してあげてくださいね」と答えると、としおさんは「わかった。頑張る」と力強く答えました。

それから、としおさんの野菜に対する接し方が変わりました。毎朝の水やりでは「おはよう、トマトちゃん」と声をかけ、「今日も元気？」と苗に話しかけるようになりました。雨の日は「今日は雨だから、お水いらないね」と言って、葉っぱについた水滴を優しく拭いてあげていました。

2週間が過ぎた頃、ついにトマトの苗に小さな新芽が出てきました。それを発見したとしおさんは、「見て！新しい葉っぱ！」と大興奮で職員や他の利用者さんに報告しました。みんなで一緒に成長を喜び合い、としおさんの顔は満足感に満ちていました。

夏になると、トマトの苗はぐんぐん成長し、黄色い花を咲かせました。としおさんは毎日の水やりに加えて、わき芽かきや支柱立てなど、職員に教わりながら様々な世話をするようになりました。「難しいけど、頑張る」と言いながら、一つ一つの作業を丁寧に行っていました。

ある日、小さな青いトマトの実を発見したとしおさんは、飛び跳ねるように喜びました。「赤ちゃんトマトができた！」と大きな声で叫び、急いで職員を呼びに行きました。それから毎日、トマトの実の成長を観察し、「少し大きくなった」「まだ青いけど、頑張ってる」と実況中継のように報告していました。

収穫の時期が近づいた8月のある朝、としおさんが菜園に行くと、真っ赤に熟したトマトが実っていました。「赤くなった！」としおさんの声は施設中に響きました。吉田職員と一緒に初収穫を行い、としおさんは自分で育てたトマトを大切に手のひらにのせていました。

昼食の時間、としおさんは自分で育てたトマトをみんなでおいしく食べました。「甘い」「おいしい」と何度も言いながら、一口一口を大切に味わっていました。「僕が育てたの」と誇らしげに報告すると、みんなから「すごいね」「おいしいね」と褒められ、としおさんの笑顔はより一層輝いていました。

その後も収穫は続き、としおさんは家族にもトマトを持って帰るようになりました。お母さんから「家でも『トマトちゃん』の話ばかりしています。こんなに一生懸命になっている姿を見るのは初めてです」という嬉しい報告をいただきました。

秋になり、トマトの栽培が終わった後も、としおさんの野菜作りへの情熱は続きました。「今度は何を植える？」と次の作物を楽しみにし、大根や白菜の種まきにも積極的に参加しました。冬野菜の世話も毎日欠かさず行い、「野菜は僕の友達」と話すようになりました。

春が再びやってきて、新しい野菜作りの季節になりました。としおさんは後から施設を利用するようになった新しい利用者さんに、「野菜を育てるのは楽しいよ。毎日お水をあげて、優しく話しかけるんだよ」と教えてあげるようになりました。

1年間の野菜作りを通じて、としおさんは責任感と継続力を身につけただけでなく、命を大切にする心も育みました。「野菜も生きているから、大切になきゃいけない」と話すとしおさんの言葉には、深い愛情が込められていました。

ご家族は「野菜作りを始めてから、としおの人としての成長を感じます。命を大切にすることが育って、家族に対しても以前より優しくなりました」と喜んでいました。

今日も、としおさんは朝早く菜園に向かい、野菜たちに「おはよう」と声をかけています。その姿を見ていると、自然との関わりを通じて育まれる豊かな心と、小さな命を慈しむ優しさの大切さを改めて感じます。野菜作りという活動が、としおさんにとって人生の大きな喜びとなっていることを、毎日の笑顔が物語っています。